



The United States

有権者に力を与える インターネットの「真価」

〔インタビュール〕 早稲田大学 社会科学部 教授 今村浩

大統領予備選挙真っ只中のアメリカでは、インターネットが候補の当落を左右する現象まで起こり始めているという。インターネットが大統領選挙に与える影響について、アメリカ政治に詳しい早稲田大学の今村浩氏に聞いた。

92年までさかのぼる ネットと選挙の深い関係

現在、民主・共和両党の予備選挙が白熱している。アメリカ大統領選挙。民主党ではニュー・ハンプシャー、ネバダ両州でヒラリー・クリントン上院議員がバラック・オバマ上院議員を抑えて連勝。

一方で、サウスカロライナ州共和党予備選挙ではマケイン上院議員が勝利を取め、本命候補への足がかりをつかむかと思われている。このように両党、各州で激戦が繰り広げられているが、アメリカ大統領選挙ではインターネットがその趨勢に大きな影響を与えている。

アメリカ大統領選挙でインター

ネットが積極的に活用されるようになったのは1992年と言われている。民主党の候補であったジェリー・ブラウン氏が、予備選でEメールを使った情報発信を行ったことが、アメリカにおいて明確に記録に残っている、最初のインターネットを使った選挙活動であると言われている。

アメリカは国土が広く、また集合住宅が少ないため、先進国の中ではブロードバンドの普及率が低いと言われる。92年当時の国勢調査でも、インターネット人口は約半数であったこともあり、この戦術は選挙の趨勢に大きな影響を与えるには至らなかった。

アメリカの政治、特に大統領選

挙におけるインターネット時代は、2000年に幕を開けることになった。有権者からの動き

有権者からの動き

「Nadar Trader」

00年は、アメリカ大統領選挙におけるインターネット活用元年であると言われている。その理由について、アメリカ政治が専門の早稲田大学社会科学部 教授 今村浩氏は次のように説明する。

「2000年の選挙戦におけるインターネットに関連した最大のトピックスは、アリゾナ州の予備選挙においてオンライン投票が行われたことです。これは、候補者側からの広報活動ではありませんが、イン



いまむら・ひろし
1954年生まれ。三重県出身。77年、早稲田大学政治経済学部卒業後、86年、早稲田大学大学院政治学研究所博士後期課程満期退学。専門はアメリカ政治。

ターネットがそれだけ一般的に使われるようになったことを端的に表わす出来事といえるでしょう」。

また、支持者によるインターネットの活用でも、興味深い事例がある。

この年の大統領選挙では、ジョージ・W・ブッシュ氏とアル・ゴア氏が、歴史に残る大接戦を演じていた。そこに現われたのが、第3の候補者、ラルフ・ネーダー氏だった。ネーダーは、どちらかというゴアの票を食ってしまい、ブッシュに有利になると危惧したゴアの支持者が、奇抜な手を思いつく。

ブッシュ氏とゴア氏の接戦が予想される州に住むネーダー支持者と、ブッシュ氏（もしくはゴア氏）が庄

例的に優勢な州に住み、ゴアに入れなくても結果は同じだというゴアの支持者が票を交換する約束を、ネット上で交わそうというのだ。ネーダーへの投票を考えていた人々は、一種の抗議の意思表示をしたと望んでいたから、どの州で票を得ようと構わなかった。これはネーダー氏の名前をもじって「Nadar Trader」と呼ばれた。



1日の献金額の新記録を樹立したロン・ポール氏。ネット経由での献金がメインだ

「結局、ネーダー氏は2・7%の票を得ました。大接戦であった選挙戦において2・7%の得票は大きく、この結果、ブッシュ氏が勝利を取めたとはいえ、選挙戦において、候補者側からの情報発信だけでなく、有権者による自発的な運動にもインターネットが大きな力になることを示したといえる。

08年、ネット言論が 新しい流れを作るか

現在、開催されている08年の予備選挙でもまた、有権者主導によるインターネットを通じた新しい動きがある。今村氏はこう話す。

「共和党の有力な候補者は、ミット・ロムニー前マサチューセッツ州知事やジョン・マケイン上院議員と

見られています。ところが、個人の自由を最大限に認めるべきであるという主義を持つリベタリアリズム主義者のロン・ポール下院議員に、インターネットを通じて多くの献金が行われ、一日の献金額として新記録となる620万ドルの金額を集めることに成功したのです。2000年にマケイン氏がネット献金で一日15万ドルを集める新記録を作った話題をさらったことを思うと隔世の感があります」。

アメリカ大統領選挙と インターネットの関係

1992年
●ジェリー・ブラウン氏がメールを使った選挙活動を展開

2000年
選挙における
インターネット活用が本格化

- ステイブ・フォードス氏、ライブ・インターネット上で大統領選への出馬を表明した最初の候補者となる
 - アリゾナ州で民主党予備選挙にインターネットを利用
 - ジョン・マケイン候補、クレジットカードとインターネットによる小口献金で本選闘
 - ゴア氏の支持者が「Nadar Trader」運動を展開
- 2008年
●ヒラリー・クリントン氏がネット上で正式に出馬表明
- YouTubeにテレビ番組だけでなく、携帯電話のカメラで撮影した候補者の映像などがアップされる
- ネット上でロン・ポール氏支持者増加、1日で620万ドルの献金を集める（過去最高額）



オバマ氏(左)とヒラリー氏(右)の公式ホームページ。質、量ともにさほどの違いはないという声も